

住民主体で福祉のまちづくりを推進する情報交流紙です

よつ葉のクローバー KIKUSUI

No.23 2009.7.25

菊水福祉のまち推進センター運営委員会
札幌市白石区菊水6条4丁目3-10
電話 011-887-7006 FAX011-887-7006
URL <http://www.kikusui-net.jp>



福まち通信



涼しさを求めて 大通西8丁目

きらぎらと照りつける太陽。吹き出る汗。涼を求めて都会の中の数少ない水辺に憩う親子連れ。

そんな夏への想いを振り切るようなこの頃のお天気ですが、それでも時折やっぱり夏だな～と思わせる日があります。そんな日には、子どもたちは待ちきれないように水遊びに興じます。

7月21日から大通で恒例のピアガーデンが開かれています。仕事や生活の曇天気分を吹き払うように、大人たちも水辺を求めるのでしょうか。



白石区川下公園でのスナップ

福祉施設・地域での共生の試み



これは、日頃仕事と子育てに忙しく一緒に遊ぶ機会の少ないお母さんと子ども、それに利用者相互の交流と親睦の機会をつくろうと、



挨拶する真鍋町内会長



上田札幌母連会長

お世話になっている地域の皆様と、このような形で懇親を重ねることがで

施設側が企画実行したものです。またそれに加えて、地域の中で暮らしている住民の一人として、日頃お世話になっている町内会の皆さんに、感謝の気持ちを伝えることが目的ですと恩田施設長さんは話してくれました。

第一部は、公園で行ったゲーム大会です。しらぎく荘の子どもと近所のお友達約100人が、ヨーヨー釣り、輪投げ、的あて、手作り(折り紙・形ぬき)、くじ引き、バルーン風船などで遊びました。

綿あめには長い行列ができていました。会場内では、町内会の役員の方たちがお手伝いしていました。

続いて第二部が午後5時半から西町集会所で行われました。しらぎく荘40名、町内会20名が一堂に集まり、懇親を深めたのです。来賓として真鍋町内会長や札幌母連の上田会長からのご挨拶の後、北大落研による落語二題とプロの手品を楽しみました。その後、しらぎく荘提供の食事と、町内会からの差入れのビールやジュースで宴会が始まりました。最後にはビンゴゲームで大いに盛り上がり閉会しました。この会に参加した札幌母子福祉連合会の上田会長は、「日頃

7月11日(土)午後2時から、菊水5条2丁目の菊水公園で、隣接する母子生活支援施設「札幌市しらぎく荘」主催の夏祭りが行われました。



日頃、しらぎく荘にご理解、ご支援をいただきましてありがとうございます。感謝の気持ちと親睦を兼ねまして地域の皆様としらぎく荘の親子、職員全員で夏まつりを行いたいと思います。下記の日程で行いますのでぜひいらしてください。お待ちしております。

日時	7月11日(土)
第1部	14時～16時まで
○地域の子も達としらぎく荘の子も達	
内容	①くじ②ヨーヨー③輪投げ④わたあめ⑤的あて ⑥バルーン風船の手づくりコーナー
○場所	菊水公園(雨天・西町集会所)
第2部	17時30分～19時30分
○菊水4・5条2丁目町内会の方々としらぎく荘の親子	
内容	①北大落語 ②手品 YAMATO ③ビンゴ
○場所	西町集会所





きて、大変感謝しています。このようなよい関係が続けられ、施設利用者が地域の一員として受け入れ、早期に自立していけることを望んでいます」と、大変喜んでいました。町内会からの参加者は「施設のお母さんたちと打ち解けた話ができ、大変良かった」と感想を漏らしていました。



『よつクロ』3年目に突入

平成19年6月15日に創刊号を発刊してから、この23号で3年目に入りました。

初年度と次年度は、白石区社協のモデル事業として予算の配分を受け、実施してきました。今年度はよつクロ発行の実績が認められ、福まちの一般会計に計上されています。

昨年度からは、月刊として発行することを計画して、実績として8号から19号までの通年月刊を達成することができました。

編集方針は、よつクロの基本理念である「見つめ愛」「触れ愛」「支え愛」「学び愛」を柱に、菊水福祉のまち推進センター運営委員会の事業内容をお知らせすることを主眼としてきました。そのほかには、日常生活の中では目に付き難いボランティア活動の紹介、各種関係団体の紹介、各種福祉施設の紹介なども積極的に取り上げてきましたし、共同募金活動のお話や盲導犬特集も行いました。福祉に関する話題を、皆様の目となり耳となって拾い集めてご提供しようと、編集委員はこれからも励んでまいりますので、どうかご愛読くださいますようお願いいたします。

【参考】「福まち通信発行状況」

平成19年度版札幌市社協発行「福まち活動のまとめ」から

福まち独自発行 58地区 (全市で88地区中)
発行回数 年8~12回 3地区

白石地区で独自の福まち通信を発行しているのは、菊水地区と菊の里地区の2地区のみであり、その他の地区は、地区社協だよりの中に福まち活動が掲載されている状況である。それらの地区にあっても、発行回数が毎月という地区は見当たらない。

施設が地域で共生すること

しらぎく荘は、児童福祉法に定められた福祉に欠ける児童とその母親を援助するために設けられている施設で、昭和49年に市の直営施設として設置されました。平成18年4月からは指定管理者制度により、(社団)札幌市母子寡婦福祉連合会にその運営が委託され、民間法人の手で運営されています。

以前は「母子寮」という名で、一般の地域で暮らすことが困難な母子を入居させる一種の保護施設でした。従って、地域に存在していてもひっそりと暮らすものとして扱われてきたのです。従って、これまでの35年間は積極的に地域との交流は行われてきませんでした。しらぎく荘だけではなく、市内に存在するほかの5施設でも同じように扱われてきました。

この度の「しらぎく荘・夏まつり」は、その慣習を打ち破る快挙であるといっても過言ではありません。ノーマライゼーション(いろいろな人や色々な問題が地域に混在することが普通であるとの意)が叫ばれてから久しくなります。施設が地域にある限り、地域で共存し、共生していくことは当り前のことであり、隔絶されるべきものではありません。

この意味において、初めて試みられた今回のイベントは大変意義深いことであり、コロンブスの卵の例を引くまでもなく、誰もが考えていても実行してこなかったこの試みを実行するに至った施設関係者と町内会の英知と勇断には敬意を表すほかありません。

菊水地区は、昔から福祉需要の多いところであり、福祉施設が多く存在しています。他の施設や地域にも、この様な試みが広がっていくことを望んでいます。

「福まち」事務局長に就任して

この度、井東前事務局長の後任をお引き受けする事になりました佐藤で御座居ます。昨年、お手伝いをさせていただいて「福まち」に対し経験も知識も無い私が大役をお受けして良いものか悩む所ですが、既に細野運営委員長のリーダーシップの下、女性陣の協力体制も磐石であり、また運営委員のメンバーを見ると福祉のプロである民生委員の方々も相当数入っていらっしゃると思いますので、私の様な素人でもご指導頂けるものと楽天的に考えお受け致しました。当面は諸先輩が築き上げた事業をなぞるだけで手いっぱいと思いますが、皆様にご協力頂き、「昨日より今日、今日より明日」と少しでも前に進む様に努力をして参りたいと考えております。



ところで、7月1日からゴミの有料化に伴い新ルールが実施されました。従来より分別が細分化され一部の方々から「今まででも守らなかった人達が守る訳がない、もっと酷い事になる」と危惧する声が増えましたが私はもっとポジティブに考え、行政もテレビや色々な媒体を使ってPRしていますので、この機会に町内会としてルールを守らなかった人達に改めてルールを浸透させるチャンスだと思っております。そして町内の皆様も1日から各ごみステーションを巡回し新ルールの浸透のため努力し、また、不法投棄のごみを回収する為に12日を菊水地区一斉清掃デーとしゴミの回収に当りました。昨今の日本は社会性の希薄と個人主義の横行が顕著になっておりますが、菊水地区に限ってはまだまだ捨てたものではありません。菊水のため微力ながらも役に立てれば幸いです。皆さまのご指導を宜しくお願い申し上げます。

菊水地区福祉のまち推進センター運営委員会

事務局長 佐藤 剛

ホームページの試研公開

菊水地区まちづくりネットワーク会議製作のホームページは、ほぼ完成の域にあり現在試研公開中です。いろいろなページがありますが、その中でも福祉のページは出来上がっていますので、ご覧ください。

福祉のページの内容は、福まち推進センター活動、子育てサロン、老人クラブ、ふれあい・いきいきサロン、児童福祉・保育所、老人福祉、障害福祉、母子生活支援、介護保険利用、介護予防となっています。

その他に、最近の出来事、お知らせや、菊水地区の広報誌のバックナンバーがご覧になれます。

URLは次のとおりです。

<http://www.kikusui-net.jp>



編集後記

7月から始まったゴミの有料化。これに合わせてゴミの分別方法が変わりました。これでゴミに対する市民の意識が大きく変わってくるのではないのでしょうか。

編集子もビニールとプラスチックの表示に目が行くようになったし、リサイクルできるもの、雑紙などの分別に気をを使うようになった。

高齢者の見回り活動も、このように地域全体の問題として日常化したものだ。
(枝元編集員)